

FUJIEDA ROTARY CLUB

藤枝ロータリークラブ会報

例 会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail club1972@fujieda-rotary.org



【バラ】

写真提供：櫻井龍太君

会長：青島 彰 副会長：仲田 廣志 幹事：大塚 博巳 副幹事：池ノ谷 敏正

第1929回

- ソング 我等の生業
- ソングリーダー 新島 義之君



【2011-2012年度 RIテーマ】

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

カルヤン・パネルジー

会長報告

青島 彰君

12月7日例会後に静岡産業大学冠講座10周年記念シンポジウムに大塚幹事と出席しました。藤枝校、磐田校合同の開催でした。

シンポジウムは「21世紀の社会が求める人材・地域に貢献できる人材」のテーマで開催されました。例会後でしたので開会のセレモニーには間に合いませんでしたが清成法政大学元総長の基調講演には何とか間に合いました。基調講演第2部は静岡銀行頭取中西勝則氏の「地域に貢献できる人材の育成に向けて～静岡銀行の人材育成」と題してのお話でした。静岡銀行の中にもできの悪い行員はいるようでその対応として上司がその行員と積極的に対話をしモチベーションアップをなさいと指導しているそうです。しかし大体そのような行員はなかなか良い結果は生まれず挫折してゆく行員が多く行員教育の難しさがあるそうです。しかし行員教育を積極的に行っていることを周囲の行員は見ているわけで決して無駄ではないと話されていました。

基調講演が終了し標記の講演テーマによるパネルディスカッションが行われました。コーディネーターは大坪学長、パネリストにはヤマハ発動機元社長の梶川隆氏、シャンソン化粧品社長川村修氏、藤枝市長北村正平氏、先に基調講演をされた2氏の構成で行われました。そのなかでシャンソン社長の川村氏が所属女子バスケットボールチームの10連覇の話しをされました。読売ジャイアンツが9連覇をしたなら我がチームは10連覇を目指せと号令を掛け見事に達成したが他チームの親会社

は会社の規模が数十倍の企業ばかりで小さな会社が苦勞しながらたゆまぬ努力、工夫を重ねての結果の達成感と爽快感はなかなか経験できるものでなく、社員のモチベーションアップにつながり、常に人材育成の手法として捉えているとのことでした。

北村市長は最近の職員採用について、過去には市内からの採用が多く職員の中には甘え等も見受けられ市内採用の弊害もあることから。昨年からは初めて市外での採用説明会を行ったそうです。約200名の参加者があり、その中から優秀な人材確保ができればと期待をしているそうです。最近では行政職員も高度な専門知識を持ったものでないと十分な対応ができない時代となっていて入庁後も研修等に相当な時間を割いて人材育成を行うように考えているとのことでした。

年内は今回の例会とクリスマス家族例会を残すのみとなりました。来年は創立40周年記念事業、式典にむけて会員全員で頑張っていたいただきたいと思います。会員の皆様のご協力をお願いします。

幹事報告

大塚 博巳君

- 第2620地区より
第13回ロータリー国際囲碁大会の案内が届いております。
- 第2620地区より
ロータリー財団への寄付に対しての税制上の優遇措置についての案内が届いております。

- 第2620地区より
伊豆中央RCインターアクトクラブ認証伝達式終了の報告が届いております。
- ローターへの友編集委員より
決算報告書が届いております。
- 国連難民高等弁務官事務所より
寄付の依頼が届いております。
- 藤枝市サッカー協会より
第20回藤枝市長杯Jrユースサッカー大会の案内が届いております。

出席報告

小西 啓一君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
30 / 42 71.43%	32 / 43 74.42%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

石割君 酒井君 杉山君 鈴木邦君
平君 玉木君 松葉隆君 松葉義君
水野君 落合君 鈴木舜君 仲田晃君

(2)メイクアップ者

山田 昭雄君(藤枝南) 石間 尚雄君(藤枝南)
杉山 静一君(焼津南)

スマイルBOX

小西 啓一君

- 40周年記念事業のクラブソング「我らが藤枝ロータリー」を歌わせていただくことになりました。光栄です。 柳原 寿男君
- クリスマス家族例会、孫たちもお世話になります。楽しみにしています。 竹田 勲君
- 無事退院する事ができました。クラブからご丁寧にお見舞いまでいただき恐縮する限りです。又、体調を完全にしがんばっていきます。ありがとうございました。 島村 武慶君
- 結婚記念のバラをありがとうございました。もう20年目に入りました。時折、トゲのある会話もありますが、関係がバラバラにならないように、今後も精進していきます。 江崎 晴城君

スマイル累計金額 136,970円

◎ I A C指導者講習会報告

大塚 高宏君



国際ロータリー2620地区

2011～2012年度インターアクト指導者講習会

日時：平成23年12月11日(日)

会場：ぬまづ健康福祉プラザ

サンウェルぬまづ4階

ホスト校：静岡県立沼津商業高等学校

スポンサーRC：沼津ロータリークラブ

参加高校数：15校

参加総数：140名(内生徒数：74名、顧問18名、地区関係者13名、RC35名)

藤枝RC関係の出席者：藤枝順心高校 4名、藤枝ロータリー1名の計5名

(藤枝順心高校：2年大塚優喜、1年山本美優、1年谷下美凧、顧問佐野先生、)

(藤枝RC：大塚高弘)

講習会内容

10:30より沼津商業高校IACの司会進行で開会式が始まり、点鐘後は東日本大震災の被災者への黙祷を行い、開会の言葉、国歌・インターアクトの歌、来賓祝辞へと進行しました。来賓祝辞は積ガバナーが挨拶をし、1963年6月27日に宮城県の仙台の高校が日本で初めて認証をもらい、一日遅れで京都の高校が認証されて以来約50年の歴史があるIACであり、12歳から18歳までの主に高校生の生徒たちに社会奉仕と国際交流を目的に多くの方々と出会える場所であると挨拶されました。次に地区新世代委員長の挨拶では、今年伊豆総合高校が新しく認証され仲間に入りましたと報告があり、新世代委員会はインターアクトとローターアクトの2つの組織があり、IACは高校生が中心ですが、



ローターアクトは19歳から30歳までの方では是非、高校を卒業したら、次のローターアクトで高校生での経験を生かして欲しい。と挨拶しました。次に来賓、参加RCの紹介、参加校のIACの紹介、ホスト校の沼津商業高校学校長高田校長先生の挨拶、そして、沼津商業高校IAC部部长植松部長より歓迎の言葉、スポンサーRCの沼津RC望月会長が挨拶を行い開会式が終了しました。

次に講演に移り講師に日本YMCA 同盟 国際青少年センター東山荘 営業主任 佐久間真人氏をお迎えして、演題に阪神淡路・東日本からの学び しんどいけれど、継続しよう「災害時に高校生の役割」を講演しました。

講演内容は主に現在の被災地の状況と被災地でのボランティア活動をスライドで紹介。

岩手県宮古市にYMCA ボランティアセンターを開設して、津波による被災した



家の中にあるヘドロや土砂、家財の片付けが主な仕事です。しかし、柱が曲がっている家は全壊とみなし、中に入れず作業が出来ない家もありました。また、片付けでは辺りがヘドロで堆積しているので、長靴は釘などを踏み危険なので鉄板の入っている安全靴や鉄板を中に敷いて履かないと危ない状態でした。

震災直後は高校生が支援やボランティアは出来ません。なぜなら、まず道路には50cm位ヘドロがあり歩くに大変な状態で、まず自衛隊が道を作る事から始まります。

講師は神戸出身なので阪神淡路大震災を経験しており、(1) 東日本大震災との違いは①圧倒的な被災地域の広さ。②津波の独特な被害(圧倒的破壊力、ほとんどが水死、全てが重油入りのヘドロと海水など)。③ひとつとして同じ災害は無く・同じ地域も無い。④悲惨さはそれぞれ、但し距離数十メートルの差で天国と地獄のような格差。⑤死者行方不明者約3万人弱、神戸は7000人弱。約4倍。

(2) 長期化する復興の中でのボランティア活動の

取り組みとして①阪神淡路に比べて復興の期間も労力も2~3倍以上はかかる。②神戸は10年を節目にした。東日本はもっとかかる?③5年10年を見越したボランティア活動、地域支援活動。④まだ危険な余震もあり、一般ボランティアの投入は慎重に行うべき。

(3) 今後、東北の復興に向けて住民は。①街の復興と共に、心の復興も。②この震災を機会に、東北地域の自殺率低下への思い切った方策を考える。③元気になる人から元気に。公平性にとらわれすぎない。④高齢者や障害者、妊婦や乳幼児には温かい目を。子供が心配。⑤現地に行かなくても、出来る事がたくさんある。

(4) 心配な事は①支援者の支援もこれから大切。②非日常から日常に戻っていく手助けを。③安易な支援は、心の復興、自立の芽をそぐ形になる。

(5) ボランティアに行ってもほしくない人について①自分がボランティアしたいという思いが強すぎる人。②自分を探している人。③心と体の健康管理が出来ない人。④自分の当たり前のように、しっかりと戻る事が出来ない人。⑤熱しやすく、冷めやすい人。⑥ボランティアなんかなくても、「東北の人は自分の力で立ち直る力を持っている」ということを信じる事が出来ない人。⑦1回ボランティアに行っても全てがわかったようになる人。⑧行っていない人より行ったほうがえらいと思っている人。

(6) ボランティアに来てほしい人は①ボランティアの枠を外して、一人の人間として東北の人と向き合い、東北が歩む復興のあゆみに寄り添う覚悟のある人。②自分の地域で災害が起きた時には、自分自身が家族を守り、仲間とつながり、地域を支え、そのために学びを現場で学びたいと思っている人。

(7) 人とつながるといふこと→相手の人が生きる力を少し取り戻す可能性がある。

非日常の世界では、日常の生き様が試されます。いつもやっていない人は、いざという時にもやはり役に立ちません。

目の前の仕事をしっかりとし、仲間を大切に、あなたの家族を愛し、自分自身を誰よりも愛して

ください。そういう当たり前のことが、一番難しく、そういう当たり前の事をしっかり出来た人が、この東北の被災地でも、輝いています。

でもそろそろ、そんな人たちも限界です。

覚悟をきめて、東日本の方々の友達になってくれませんか。友達なら、多少の力になりたいと思いますよね。覚悟をきめて、東日本の方々のお話し相手になってくれませんか。話し相手なら、東日本の方々も少し笑顔が出るかもしれませんね。覚悟をきめて、東日本の方々の後方支援になってくれませんか。物資の救援も難しい時期になってきましたが、お金の力はやはり大きいです。

ライフラインからハートラインへ

非日常の世界から日常の当たり前の生活へ

以上が講演内容です。

次に沼津商業高校：植松さんより「東日本大震災被災地訪問報告」があり、8/20～8/22 に石巻へ訪問し、ソーシャルアントレプレナーシップのセミナーに参加しました。研修の目的はメディアの報道は正しいか？自分たちが何が出来るのか等同じ高校生が何を考えているのかを研修しました。また、石巻高校の生徒と話しでは、小学生のことで、「今回の震災は神様か仏様かいや周りの人に生かされた。」印象に残っています。

セミナーに行った後の提案です。①何が出来るのかを考える。②定期的な避難訓練。③沿岸部の地域環境の改善。以上の課題を提案します。

昼食後 13:05 から 4

つに分かれて分科会を行い各学校の活動内容、今後の課題や抱負について意見交換を行い、その後全



体会で、各学校 1 名が分科会の意見を取り入れて活動内容と課題、今後の抱負を発表しました。

各学校の主な活動内容

①東日本への募金②ワクチンの為のエコキャップ運動（ペットボトルのキャップ）③古切手、テレホンカードの収集④グリーンカーテン⑤赤い羽根募金⑥点字などです。

各学校の今後の抱負

静岡高校：同好会なので人数が少なく生徒会と一緒に活動していきます。

大月高校：人との関わりをもっとしていきたい。

順心高校：部員の増加。

聖隷クリストファー高校：部員の増加。

吉田高校：委員会としての活動なので時間を工夫したい。

焼津中央高校：部員が 5 人しかいないので、部員



の増加と老人ホームや学童の訪問

富士学苑高校：東北の人たちと交流したい。

西遠女子学園高校：

ブラジル人学校との再交流、地域の人との交流。

日本航空高校：東日本への積極的な参加と支援をしたい。

三島高校：毎年継続出来る活動をしたい。

白根高校：毎年継続する活動をする。例えば緑のカーテンなどを中心に。

加藤学園高校：部員が他人の為に何かをする組織にしたい。

伊豆総合高校：伊豆半島ジオパーク活動。

連絡事項

1. 次回の第 39 回年次大会

静岡西 R C（ホスト R C）、常葉学園橘高校（ホスト校）で 2012 年 7 月 28 日（土）、29 日（日）に会場は静岡県立焼津青少年の家で行います。

また、来年以降は学校の公式行事になるので 1 年前からの予約で公立の施設が使えます。

2. インターアクトー泊国内研修会について

日時 2012 年 3 月 24 日（土）～ 25 日（日）

場所 厚木市七沢自然ふれあいセンター

本年度は神奈川第 2780 地区と合同で、台湾のインターアクトーも参加予定

最後に、今回は沼津で体を洗わずに心を洗って来ました。この指導者講習会に参加のチャンスを与えて頂いた、会長、幹事、役員の皆さん、特に委員長と影の班長に感謝申し上げます。インターアクト指導者講習会の報告と致します。有難うございました。
(担当/江崎晴君)